

フレンチ・ブルドッグの改正部分

改正	現行
<p><b>■沿革</b></p> <p>全てのマスティフ犬種同様、エピラスやローマ帝国のモロシヤ犬種に由来すると考えられ、イギリスのブルドッグの祖先やアラン（中世の大型獣猟犬種）、フランスのマスティフ犬種や小型タイプのマスティフ犬種とも関連がある。フレンチ・ブルドッグは、1880年代にパリの下町で熱心なブリーダーによる異種交配により作出された。その際、フレンチ・ブルドッグはパリの市場の人夫や肉屋、御者に飼われていたが、その独特な外貌と特徴により、上流社会や芸術家の世界に受け入れられ、急速に広まっていった。この犬種の最初のブリード・クラブは1880年にパリで設立された。最初に登録があったのは1885年で、最初のスタンダードは1898年に作成された。この年はフランスK Cがフレンチ・ブルドッグを公認した年でもある。この犬種が初めてドッグ・ショーに出陳されたのは1887年のことである。<u>1931年～1932年及び1948年に修正されたスタンダードは、1986年にはR. トリケ氏の協力の下、H.F. Rent氏により改訂された（F C Iの公表は1987年）。その後、1994年にはViolette Gillon氏により改訂され（F C Iの公表は1995年）、また、2012年にはフレンチ・ブルドッグ・クラブ委員会により改訂された。</u></p> <p><b>■一般外貌</b></p> <p>小型のモロシヤンである。小型のわりに力強く、短く、がっちりしており、全体的にコンパクトである。被毛は滑らかで、しし鼻で、耳は直立し、生まれつき尾は短い。活動的で、知的で、大変筋肉質で、骨格のしっかりしたコンパクトな体軀構成でなければならない。<u>外貌及び歩様において、全体的な調和を損なうような誇張をしてはいけない。</u></p> <p><b>■重要な比率</b></p> <p>体長（肩端から尻までの長さ）は体高を若干上</p>	<p><b>■沿革</b></p> <p>全てのマスティフ・タイプの犬同様、エピロスやローマ帝国のモロシヤ犬に由来すると考えられ、イングリッシュ・ブルドッグの祖先やアラン（中世の大型獣猟犬）、フランスのマスティフや小型のマスティフ・タイプとも関連があるが、1880年代にパリの下町で熱心なブリーダーの異種交配により作出された。</p> <p>パリ中央市場の人夫や肉屋、御者に飼われていたが、その特殊な外貌と特徴によって、上流社会や芸術家の世界に受け入れられ、急速に広まっていった。</p> <p>この犬種の最初のブリード・クラブは、1880年にパリで設立された。最初に登録があったのは1885年で、最初のスタンダードは1898年に作成された。この年は、フランスK Cがフレンチ・ブルドッグを公認した年である。ショーに初めて出陳されたのは1887年のことである。</p> <p><b>■一般外貌</b></p> <p><u>典型的な</u>小型のモロシヤン・<u>ドッグ</u>である。小型のわりに力強く、全体的にプロポーションは短く、コンパクトで、被毛は滑らかで、<u>顔は短く</u>、しし鼻で、直立耳と自然な短い尾を有する。活動的な外貌で、理解力があり、たいへん筋肉質で、骨格のしっかりしたコンパクトな体軀構成でなければならない。</p> <p><b>■重要な比率</b></p> <p>無し</p>

回る。

マズルの長さは頭部の長さの約6分の1である。

### ■習性／性格

社交的、且つ、活発で、遊び好きで、独占欲が強く、鋭敏なコンパニオン・ドッグである。

### ■頭 部（ヘッド）

頑丈で、幅広く、四角くなければならず、頭部の皮膚には対称的な襞と皺が入っているが、過度ではない。

#### □頭蓋部（クラニアル・リージョン）

##### スカル

幅広く、両耳間はほぼ平らで、額はドーム形である。眉弓は顕著で、両目の間の特に発達した額溝で分けられている。この額溝は頭頂まで達してはならない。オクシパットは、ほとんど発達していない。

##### ストップ

明瞭である。

#### □顔 部（フェイシャル・リージョン）

頭部はマズルの短さと、鼻が軽度から中程度、後方に傾斜していることが特徴である。鼻は若干上向きである（「しし鼻」）。

##### 鼻（ノーズ）

黒く、幅広く、短くて上向きで、対称的で、鼻孔はよく開き、後方に傾斜している。鼻孔の傾斜と上向きの鼻が通常の呼吸を妨げることがあってはならない。

##### マズル

たいへん短く、幅広で、対称的な襞ができる。

##### 唇（リップス）

厚く、僅かにゆるく、ブラック。上唇は下唇と真ん中の部分で合わさり、歯を完全に覆っている。

上唇の側面は下降し、丸みを帯びている。犬が興奮していない時に決して舌が見えてはな

### ■習性／性格

社交的且つ、活発で、遊びやスポーツが好きで、鋭敏である。主人や子供に対しては特に愛情豊かである。

### ■頭 部（ヘッド）

頭部はたいへん頑丈で、幅広く、角張っている。頭部の皮膚には対称的な襞と皺が入っている。頭部は顎骨から鼻までが短いのが特徴で、頭蓋は長さはないが、幅がある。

#### □頭蓋部（クラニアル・リージョン）

##### スカル

幅広く、ほぼ平らで、前頭部はよく発達している。眉弓は顕著で、両目の間の特に発達した皺で分けられている。この皺は前頭部まで達してはならない。後頭部の隆起はほとんど発達していない。

##### ストップ

たいへん明瞭である。

#### □顔 部（フェイシャル・リージョン）

無し

##### 鼻（ノーズ）

幅広く、たいへん短く、上を向いており、鼻孔はよく開き、対称的で、後方に傾いている。鼻孔の傾斜と上向きの鼻（しし鼻）が通常の呼吸を妨げることがあってはならない。

##### マズル

たいへん短く、幅広で、上唇に向かって中心を共にする対称的なひだができる。（マズルの長さは頭部全体の長さの6分の1である。）

##### 唇（リップス）

厚く、僅かにゆるく、ブラック。上唇は下唇と真ん中の部分で合わさり、歯を完全に覆っており、決して歯が見えることがあってはならない。上唇の側面は下降し、丸みを帯びている。舌は見えてはならない。

らない。

#### 顎／歯（ジョーズ／ティース）

幅広く、力強い。下顎は上顎の前に突き出ており、上向きである。下顎切歯の歯列はアーチしている。顎がずれたり、ねじれていてはならない。上顎と下顎の切歯間の隙間は厳密に定めるべきではなく、上唇と下唇が完全に歯を覆っていることが必須条件である。下顎切歯は上顎切歯よりも前に出ている。切歯及び犬歯は十分に発達している。完全歯が望ましい。

#### 頬（チークス）

良く発達している。

#### 目（アイズ）

明瞭に見える目。活き活きとした表情で、位置は低く、鼻と耳から遠くに付いており、色はダークで、かなり大きく、丸みを帯び、真っ直ぐに前方を見ている時には白い部分（強膜）は全く見えない。眼縁はブラックでなければならない。

#### ■**頸（ネック）**

短く、力強く、僅かにアーチし、デューラップはなく、肩に向かって太くなっている。

#### ■**ボディ**

##### トップライン

キ甲から腰にかけて除々に上昇しているが、過度ではない。外貌はこの犬種の典型的なローチ・バックとも呼ばれている。

##### 背（バック）

幅広で、筋肉質であり、緩むことなく頑丈である。

#### 顎／歯（ジョーズ／ティース）

幅広く、スクエアで、力強い。下顎は大きなカーブを描いており、そのカーブは上顎の前の部分で終わる。口が閉じられている時、下顎の突出（顎の突き出たアンダーショット）は、下顎のカーブにより滑らかに見える。このカーブは下顎の歯列と上顎の歯列との大きなずれを避けるために必要である。

下の切歯は、どのような場合においても上の切歯より内側にくることがあってはならない。下の切歯のアーチは丸みを帯びている。顎は側方に逸脱しても、ねじれていてもならない。切歯のアーチの配置は、あまり厳しく定められない。重要な点は、上唇と下唇が完全に歯を覆うような形で結び合わされることである。

#### 頬（チークス）

頬の筋肉はよく発達しているが、張り出さない。

#### 目（アイズ）

活き活きとした表情で、位置は低く、鼻から遠く、特に耳からはたいへんに離れた位置に付き、色はダークで、かなり大きく、十分な丸みを帯び、僅かに出目である。真っ直ぐに前方を見ている時には白い部分（強膜）は全く見えない。眼縁の縁はブラックでなければならない。

#### ■**頸（ネック）**

短く、僅かにアーチし、デューラップはない。

#### ■**ボディ**

##### トップライン

水平で、腰の部分で高くなり、尾に向かって急激に下降する。この構成がたいへん重要で、腰は短い。

##### 背（バック）

幅広で、筋肉質である。

□腰（ロイン）

短く、幅広で、アーチしている。

□尻（クループ）

充分に傾斜している。

□胸（チェスト）

円筒形で、充分下がっており （肘よりやや下まで）、助は非常に良く張っており、いわゆる「樽胴」である。前胸は幅広で、前望するとスクエアである。

□アンダーライン及び腹部

巻き上がっているが、ウイペットのようではない。

#### ■尾（テイル）

生まれつき短く、肛門を覆うくらいの長さが理想的である。尾付きは低く、比較的真っすぐで、付け根は太く、尾先は先細っている。ねじれていたり、こぶ状や、ちぎれた様な尾、または飛節を越す程ではないにしろ比較的長い尾も許容される。低く保持され、動いている時でも、尾は水平より上になってはならない。

#### ■四 肢（リムズ）

□前 肢（フォアクォーターズ）

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

側望、前望すると、前脚は垂直（及び真っ直ぐ）である。

肩（ショルダー）

充分にレイバックしていなければならない。

上腕（アッパー・アーム）

短く、太く、筋肉質で、僅かにカーブしている。

中手（メタカーパス）（パスターン）

短く、側望すると若干斜めである。

□後 肢（ハインドクォーターズ）

大腿（アッパー・サイ）

よく筋肉が付いており、頑丈である。

飛 節（ホック・ジョイント）

かなり低く、角度が有り過ぎてもおらず、真

□腰（ロイン）

短く、幅広である。

□尻（クループ）

傾斜している。

□胸（チェスト）

円筒形で、十分下がっており、肋郭は樽胴で、たいへん丸みを帯びている。

□アンダーライン及び腹部

過度に巻き上がりすぎることなく、張っている。

#### ■尾（テイル）

短く、尻の低い位置に臀部に沿ってついており、付け根は太く、自然にこぶ状になるかねじれており、先端は先細である。動いている時も、水平より下に保たれる。比較的長く（飛節より下に達してはならない）、ねじれて先細になっている尾は許容されるが、好ましくはない。

#### ■四 肢（リムズ）

□前 肢（フォアクォーターズ）

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

側望すると、前脚は垂直で、前望すると、両脚はよく離れてついている。

肩（ショルダー）

短く、厚く、丈夫で、よく目立つ筋肉がついている。

上腕（アッパー・アーム）

短い。

中手（メタカーパス）（パスターン）

がっしりして、短い。

□後 肢（ハインドクォーターズ）

大腿（アッパー・サイ）

筋肉質で、丸みを帯び過ぎることなく丈夫である。

飛 節（ホック・ジョイント）

かなり低く位置し、角度がありすぎても、真

っ直ぐ過ぎてもない。 足根は頑丈である。  
中足（メタターサス）（リア・パスターン）  
短い。

#### □足（フィート）

前足は、丸みを帯びており、コンパクトで、小さい。即ち、僅かに外向している「猫足」である。指趾は緊握しており、爪は短く、厚く、ブラックである。

後足は、丸みを帯びておりコンパクトで、内向も外向もしていない。

#### ■歩 様（ゲイト／ムーブメント）

前望しても、側望しても、脚はボディの正中面  
に対して平行に動く。自由で、力強く、滑らかな  
歩様である。

#### ■皮膚（スキン）

引き締まっている。

#### ■被 毛（コート）

##### □毛（ヘアー）

滑らかで、密生し、光沢があり、柔らかく、アンダーコートはない。

##### □毛 色（カラー）

フォーン、ブリンドル、及びそれぞれの毛色にホワイトの斑があるもの。

ブリンドル：虎柄のような印象を与える、ダ  
ークな縞模様が特徴的なフォーンの被毛。濃  
い縞模様の被毛が地色のフォーンを覆っては  
ならない。ブラック・マスクの場合もある。  
わずかなホワイトの斑は許容される。

フォーン：明るいフォーンからダークなフォ  
ーンまでの単色。部分的に明るい色が見られ  
る場合もある。ブラック・マスクである場合  
も、ない場合もあるが、マスクがある方が望  
ましい。僅かなホワイトの斑を伴うこともあ  
る。

ホワイトの斑があるブリンドル：「パイド」と

っ直ぐ過ぎててもならない。

中足（メタターサス）（リア・パスターン）  
がっしりして、短い。フレンチ・ブルドッグ  
は生まれつきデュークローがない。

#### □足（フィート）

前足は丸く、面積が小さい。つまり、猫足である。又、地面にしっかりと立ち、僅かに外向している。指趾はコンパクトで、爪は短く、厚く、よく離れている。パッドは堅く、厚く、ブラックである。ブリンドルの場合は、爪はブラックでなければならない。パイドの場合とフォーンの場合は、ダークな爪が好ましいが、明るい色の爪はペナルティーは課されない。後足はたいへんコンパクトである。

#### ■歩 様（ゲイト／ムーブメント）

動きは自由で、脚はボディの中心線に対して平行に動く。

#### ■皮膚（スキン）

無し

#### ■被 毛（コート）

##### □毛（ヘアー）

被毛は美しく、滑らかで、ボディに密着し、光沢があり、柔らかい。

##### □毛 色（カラー）

・フォーン、ブリンドル、およびそれぞれの毛色にわずかな白斑のあるもの。

・パイドは白地にフォーン又はブリンドルのあるもの。

・フォーンの色調はレッドからライト・ブラ  
ウン（カフェ・オ・レ）までである。全体にホ  
ワイトの犬は〈パイド〉に分類される。鼻が  
たいへんダークで、目の色がダークで、眼瞼  
もダークの場合、顔の色素がある程度抜けて  
いても犬質が高い場合例外的に認められる。

呼ばれるこの毛色は、斑が全体に分散されているのが理想的である。若干の皮膚にある斑は許容される。

ホワイトの斑があるフォーン：「フォーン・アンド・ホワイト」と呼ばれるこの毛色は、斑が全体に分散されているのが理想的である。

若干の皮膚にある斑は許容される。

全ての毛色に於いて鼻は常にブラックであり、決してブラウンやブルーではない。ホワイト一色の個体は眼瞼及び鼻がブラックであれば許容されるが、難聴のリスクがあるため繁殖には適さない。

### ■サイズ

#### □体 高

牡：27cm～35cm 牝：24cm～32cm

上下1cm以内の逸脱は許容される。

#### □体 重

牡：9kg～14kg 牝：8kg～13kg

典型的な個体の場合は、500g 重くても許容される。

### ■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利への影響に比例するものとする。

- ・ホワイトの地色にブラック・ブリンドルの極めて小さな斑が多くあるもの。
- ・フォーン・アンド・ホワイトの毛色でレッドの小さな斑が多くあるもの。
- ・フォーンの毛色で背骨に沿って伸びる濃いブラックのトレースがあるもの。
- ・ブリンドル及びフォーンの毛色で「ホワイト・ストッキング (chaussette blanche)」があるもの。
- ・明るい色の爪。

### ■重大欠点

- ・オーバータイプのもの。過度な犬種の特徴。
- ・長過ぎるマズルまたは短すぎるマズル。
- ・口が閉じている時に舌が見えるもの。
- ・明るい目 (ホーク・アイ)。

### ■サイズ

良いコンディションの場合、体重は 8 kg を下回ってはならず、14kg を越えてもならない。体高は体重と釣り合いが取れていなければならない。

### ■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利への影響に比例するものとする。

### ■重大欠点

- ・口を閉じている時に、切歯や舌の見えるもの。
- ・フォーン又はブリンドルに、白斑が全くないか白斑がほとんどない犬で顔にピンクの斑のあるもの。

- ・キ甲から腰に欠けて水平なトップライン。
- ・唇、鼻、眼縁の色素が過度に抜けているもの。
- ・ピンサー・バイト。

#### ■失 格

- ・攻撃的または過度のシャイ。
- ・肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・タイプの欠如。犬種の特徴が不十分なもの。
- ・完全に閉じた鼻孔。
- ・顎がねじれたり、ずれたりして、舌が常に見えているもの。
- ・下顎切歯が上顎切歯の後ろに接合している犬。
- ・口を閉じた時に、犬歯が常に見えるもの。
- ・両目の色が異なるもの (ウォール・アイ)。
- ・鼻の色がブラック以外のもの。
- ・直立していない耳。
- ・無尾またはめり込んだ尾。
- ・後肢の狼爪。
- ・反転した飛節。
- ・長く、硬い毛またはウーリーな毛。
- ・スタンダードに記述されていない毛色。即ち、ブラック、フォーンのマーキングを伴うブラック (ブラック・アンド・タン)、及び薄いブラック、またはホワイトの斑を伴う薄いブラック。
- ・サイズ及び体重がスタンダード外のもの。
- ・呼吸が困難なもの。
- ・難聴のもの。
- ・陰睾丸

- ・オーバーウエイトや、体重が足りないもの。

#### ■失 格

- ・鼻の色がブラック以外のもの。
- ・シザーズ・バイト。
- ・口を閉じた時に、犬歯が常に見えているもの。
- ・両目の色が異なるもの。(双眼異色)
- ・真っ直ぐ立っていない耳。
- ・断耳、断尾。
- ・無尾。
- ・後肢にデュークローのあるもの。
- ・毛色がブラック・アンド・タン、マウス・グレー、マロンのもの。
- ・陰睾丸。